

# 三愛 view

発行所：三船病院相談室  
 創刊日：2003年8月15日  
 〒763-0073  
 香川県丸亀市柞原町366  
 Tel 0877-23-2341  
 Fax 0877-23-2344

## 「当院における高齢入院患者地域支援事業の取り組みについて」

医療相談室 課長 大石 由実

三船病院では平成25年度、平成26年度の2年間、香川県より業務委託を受け、高齢入院患者地域移行支援事業を実施しました。香川県内では、25年度は4医療機関、26年度は3医療機関で実施されました。この事業は、精神科病院に入院しているおおむね60歳以上の高齢入院患者様(主病名が統合失調症の者)を対象に、病院内の医師、看護師、精神保健福祉士等の多職種と、相談支援専門員や介護支援専門員といった地域の関係者がチームとなり、障害福祉サービス事業者等と十分に連携のもと退院に向けた支援を行うことを目的としています。また、退院支援活動の過程についての調査目的もあり、支援方法や、支援内容について分類し、データを蓄積していきました。

三船病院では、毎月開催している地域生活支援委員会に本事業をリンクさせ取り組むことにしました。チームの代表として、医師1名、看護師2名、精神保健福祉士2名の院内チームと、地域の関係者より介護保険専門員1名、相談支援専門員1名を院外チームに迎え退院支援チームを結成しました。実際の個別退院支援は、主治医、看護師、作業療法士、精神保健福祉士等の各実務担当者を中心に行い、毎月の地域生活支援委員会の中で対象者の1ヶ月間の進捗状況報告と今後の方針について、院内チーム、院外チーム、各病棟看護師、作業療法士、デイケアスタッフ、社会復帰施設担当者を含めた25名の出席者で協議、検討していきました。

初年度は対象者16名(男性12名、女性4名/60代8名、70代4名、80代4名)、26年度は対象者13名(継続1名)(男性6名、女性7名/60代2名、70代8名、80代3名)の退院支援に取り組みました。対象者の特徴は、①初年度は病院全体のダウンサイジング事業も重なっていた関係で、障害者のグループホームへの退院を目指す60代の入院患者様が多く選出したこと、②入院期間1年以上5年未満が10名、5年以上20年未満が8名、20年以上が2名と29名中20名を占め、長期入院患者様の解消に取り組んだこと、③あらゆる方面で可能性を模索し、退院先の確保に努めたこと等が挙げられます。

その結果、2年間で29名中18名(対象期間後の退院も含めると24名)(家族と同居1名、特別養護老人ホーム4名、老人保健施設4名、有料老人ホーム4名、ケアハウス2名、養護老人ホーム1名、障害者グループホーム6名、他医療機関転医2名)の方の退院を実現することが出来ました。

病院全体の取り組みとしては、近隣の先進的な精神科病院への視察、家族教室、グループホームへの退院を目指す患者様対象のグループワーク等を実施しました。病棟でも、入院中から退院後に必要な金銭管理や服薬管理、ゴミの分別や整理整頓、外来通院の受付の仕方の練習等、自分の身の周りのことから練習していきました。個別には、施設見学の同行はもちろん、家族面談、退院前の施設への体験入所、介護保険や障害福祉サービスの利用申請、施設入所のための公共手続き、入所先施設との事前合同面接、退院後の施設訪問、訪問看護の導入やヘルパー利用申請援助、自立支援医療、日常生活自立支援事業の利用申請等、できる限り我々も一緒に足を運び、ご家族様の負担を減らす努力をしました。

この事業を通して、家族の退院承諾の問題、要介護度や障害支援区分の出にくいという問題、施設入所の際の費用面の問題、病状悪化時の対応の難しさの問題等たくさんの課題に直面しました。しかし、退院後に想定される心配と退院後に提供できることを関係機関も交えて皆ですりあわせていくことで、問題が少しずつ解消され、多くの方の支援のもと患者様の退院を実現することができ、長期入院患者様の退院促進は決して不可能ではないことを実感することができました。今回の取り組みを活かし、これからもより一層退院促進に取り組んでいきたいと思っております。ご協力ありがとうございます。





## 「服薬指導の必要性和問題点」

薬局長 直江 正保

薬剤師は人の生命健康にかかわることに深く思いを致し、絶えず薬学、医学の成果を吸収して患者様に安全で適切な薬物療法を提供しております。病院薬剤師の業務には調剤業務、薬品管理業務、薬品情報提供業務及び服薬指導業務があり、全てが関連した重要な役割です。

科学技術の進歩により薬は絶えず進化しております。薬は剤形が沢山あり、例えば内服薬では散剤、錠剤、水剤と3種類あり、外用薬では、貼付薬、軟膏、クリーム、点眼薬、点鼻薬、点耳薬、坐薬、浣腸薬、及び注射薬と9種類もあります。散剤は錠剤の規格がない場合に使われます。錠剤は加工が可能であるため様々な工夫された物が開発されており、それに伴い確実な使用方法が求められます。薬は個々に用法・用量及び適応症が決められており、これを守らないと本来の効果が発揮できないだけでなく、有害な症状が生じることがあります。つまり、薬は沢山の精密な特徴を有しているため取り扱う薬剤師は常に確認や情報の収集と整理に努めておく必要があります。また、最近では製薬メーカーが、先発薬品と成分が同じであるジェネリック薬品を沢山発売してきました。この薬品は一成分を多数の医薬品メーカーが販売するため薬品名や外観が良く似たものがあり、取り扱いが難しく、薬局内でも慎重な管理が求められています。

適切な治療は、患者様には不安感や不信感があっては成り立ちません。そこで医薬品を安全に使用して頂くために、十分な説明と納得を頂けるように服薬指導があります。服薬指導は決して一方的に説明したり、聞き出したいことだけを話すのではなく、薬剤師のコミュニケーション能力を十分に発揮して患者様が薬に対して納得が得られるよう疑問や話を聞き、対応することが重要であると考えております。この業務は二つのタイプがあります。一つは患者様からの質問を受ける場合です。主に外来患者様に薬局窓口で実施している場合で、お薬手帳と薬品情報紙を利用して分かりやすく丁寧な説明を心掛けております。薬剤師が薬と説明書を同時に照らし合わせて説明することで、患者様にはより解りやすくなると思われれます。もう一つは、入院中の患者様に現在使用中の薬の説明や、服薬状況の相談を行う場合です。当院も他の診療所や病院との連携があります。その関連病院からの持参薬は、薬局にて持参薬鑑別により、作用が重複する場合や薬の性質上併用できない物を発見して、その情報を提供しております。内容は電子カルテに記入することで病院スタッフも確認することが出来て、チーム医療を実施するにあたり安全な治療の推進に寄与しております。

このように薬剤師は患者様との信頼関係を構築することで安心して薬物療法が受けられるよう日々努力して参ります。

## 三船病院医師からのメッセージ...



### 「最近の出来事」

医師 伊吹 崇宏

こちらの病院に勤務してようやく一年が経ち、初夏の日差しが眩しく感じられる今日この頃、このコラムを初めて担当することになりました。私の名前の伊吹は、いりこで有名な伊吹島の伊吹さん？とよく聞かれますが、わたしの先祖は広島県で、その因果関係についてはよく分かりません。今回は何を書こうかと迷いましたが、最近あった日常の出来事について書こうと思います。

私は元来、人と話すのが好きでこの仕事を選んだということもあり、何故か昔から相手を選ばずどなたとでもすぐ会話が出来る性質のようで、つい2、3日前も家の近くを歩いていると道端の畑からおばあちゃんに話しかけられました。初めて会ったにもかかわらず、息子さん達やお孫さんのお話から始まり、せっかく家を建てたのに息子さんは転職で他県に移り住んで帰って来んわ~などのグチもお聞きし、一通り話した所で、何の仕事をしているのかと質問されて「大学に行っています。」とお答えすると何と、「お医者さんではないよね。」と言い切れ、思わず苦笑しましたが、同時に少しホッとした気持ちにもなりました。まさにこの感覚が自分の持ち味！ではなからうかと感じたからです。これからもこの感覚を大切に仕事に励みたいと思います。その時に頂いた空豆の美味しさは一生忘れられません。

# 三愛会 トピックス

## ★三船病院家族会

5月17日(日)に三船病院家族会を開催しました。今年「Dance まどか&みわ」をゲストにお招きし、素敵な歌声に会場全体がうっとり魅了されました。毎年恒例のバザーも大好評で、お天気にも恵まれご家族様と気持ちよく青空の下で食事を楽しみました。たくさんの笑顔があふれる1日となりました。



## ★第30回家族教室

5月17日(日)の家族会に合わせて、第30回家族教室を開催しました。三船病院副院長の川田浩医師が講師となり「精神科の病気とお薬について」の勉強会を行い22名の方が参加されました。ご家族様だけでなく親子で一緒に参加していただき、病気や薬についてみんなで勉強する良い機会となりました。



## 三船病院 委員会活動紹介

### 「教育委員会活動」



委員長 看護副部長 川田 知子

三船病院の教育委員会は、平成18年1月に発足し、専門知識の向上・新しい技術の習得を目指し活動しています。

活動内容として、①月1回の教育委員会の運営(各部署の教育研修計画のとりまとめ、院内教育プログラムの立案・運営)②院内研修の日程管理と広報③外部講師との交渉④院内図書の管理・広報などが挙げられます。

平成26年度の院内研修では、精神科病院職員の基本である「精神保健福祉法改定」「行動制限最小化」や医療安全から「クレーム対応」、感染対策から「職業感染予防」など様々なテーマで実施してきました。

院内・院外を問わず研修受講後は「みんなの研修」と名

付けられているツールに代表者が研修報告を入力しています。紙ファイルとして保存しておくだけでなく、ここで入力されたものは院内全てのパソコンで参考にすることが可能です。研修を受けたごく一部の人だけのものではなく情報共有の場としても利用しています。

また看護部では、本年度は新人教育に重点を置いた教育として「専門知識を深めると共に技術を磨くための支援」を計画しています。

今後も、患者様の方々の回復のため適切な医療を提供できるよう、関係各所の協力のもと教育研修を通して全職員のレベル向上を目指していきたいと思ひます。



### 《委員会》

- ・教育委員会(第1水曜日)
- ・個人情報保護委員会(第1水曜日)
- ・情報システム委員会(第1水曜日)
- ・クリニカルパス委員会(第1水曜日)
- ・地域生活支援委員会(第1水曜日)
- ・行動制限最小化委員会(第1水曜日)
- ・人権委員会(第1水曜日)
- ・医療安全管理委員会(第2水曜日)
- ・衛生委員会(第2水曜日)
- ・業務改善委員会(第2水曜日)
- ・栄養管理委員会(第2水曜日)
- ・褥瘡予防対策委員会(第2水曜日)
- ・患者サービス向上委員会(第2水曜日)
- ・薬事審議委員会(第2金曜日)
- ・診療録管理委員会(第3金曜日)
- ・院内感染対策委員会(第3金曜日)
- ・病院機能評価委員会(水曜日)
- ・倫理委員会(年1回)
- ・医療ガス安全管理委員会(年1回)
- ・予算管理委員会(年1回)
- ・接遇管理委員会(年2回)
- ・診療情報提供委員会(随時)

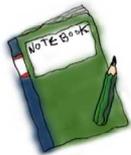
## 【介護老人保健施設 福寿荘】

「一年間を振り返って」

介護福祉士 武田友利佳

私が福寿荘に就職して早1年が過ぎました。社会に初めて出て不安なこともたくさんありましたが、職員の皆さんや、時には利用者の皆様に温かく見守っていただいたおかげでようやくここまで来られたような気がします。初めは、介助の1つ1つが難しく思えて戸惑うことも多く、短大で学んできた介護と実際の現場では少し違うことに悩むこともありましたが、職員の皆さんから1つ1つ優しい指導を受け、まだまだ半人前で利用者の皆様へのケアが行き届かない面もあるかと思いますが、なんとか日々の業務について行けるようになりました。1年が過ぎ2年目に入ります。これまでは行事やレクリエーション活動では先輩方についていだけてでしたが、これからは少しでも自主的に動けるようにしたいと思います。

また、利用者の皆さまに明るく笑顔で生活してもらえよう、いつでも笑顔で皆さまに向き合うことを心掛けたいと思います。利用者の皆様への接し方や介護技術を先輩からどんどん吸収し、実践へ活かしていけるよう。これからも頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。



## 【三愛会コミュニティケアセンター】

「相談支援事業所はなぞの 現状と取り組み」

相談支援事業所はなぞの 課長 山田 智子

平成24年の障害者自立支援法(現:障害者総合支援法)改正により、障害福祉サービスを利用される全ての方に相談支援事業所が作成する「サービス等利用計画」の作成が必要となりました。経過措置期限の平成27年3月末時点で香川県内の作成率は93%とほぼ達成した状況です。はなぞのでも平成26年度中に205人の方の支援計画を作成しました。

計画相談のシステムとなってよかったと実感していることは、①ご本人自身の現在やこれからの生活に対する希望に焦点があてられ、本人の意向に沿った支援計画が明確になること②支援方針を本人、ご家族、支援者の間で共有でき、同じ方向に向かって役割分担や協議をしながら生活全体を見据えた支援について皆で検討できること、また本人の役割も明記されていること。そして何より③モニタリングの期間が制度的に定められ、定期的、継続的に途切れなく生活の見守りをおこない、支援状況や新たな希望や困り事が発生していないかを把握して、次の支援に繋げていけるようになったことです。

今後は、相談支援の質を上げていくことが全国的な課題となっています。質の向上とは個々の相談員、事業所だけの問題ではなく、地域全体の相談支援体制を底上げして利用者の生活の質を高めたり地域福祉を促進していくことが目標となります。そのために今年度は、自立支援協議会や相談支援事業所間で互いに相談支援の質を点検し、学習していく機会が設けられました。そしてはなぞのとしては、ご本人はもとより日々直接利用者に関わっておられるサービス事業所(就労支援事業所、グループホーム、ヘルパー事業所など)や、支援の鍵を握るサービス管理責任者との協力や信頼関係を大切にしていきたいと思っております。

### ≪三船病院からのお知らせ≫

【行事予定】

○三船病院夏祭り

日時:8月8日(土)

場所:三船病院運動場

花火やバザー、盆踊りなど、豪華なゲスト出演もごさいます。ぜひ皆様お越し下さい。



### ≪編集後記≫

暑さが日ごとに増してまいりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

1面でふれましたように、三船病院では2年間にわたり高齢者の退院支援を重点的に行って参りました。数十年にわたり入院されていた方々も退院され、外来受診の際には「退院してよかった。」の声を聞かせてくださいます。そうした課程と一緒に歩むことができた喜びを感じながら、今後も皆さま方の地域生活やその人らしい生き生きとした生活を目指し、より一層努力して参ります。

(三船病院相談室 PSW)